

内地人小兒一名焼死を遂ぐ

▼忽ち同じ棟續き
なる兩家の軒屋我本 竈座の泰
兩戸に延焼し夫れより七十八番地
なる張剛家質屋戸部に延焼して火
は漸次墓通りに廻りて七十七番地
なりて八十三番地迄なる稻垣・富澤
近江・武井・三宅等戸部へ延焼す

▼保險を附しめる
り、損害額は尙取調中なるが戸
部質屋最も大なるものゝ如く同室
戸部にて一萬五千元以上其の他る
セは合計約三萬三千圓内外の目
金なりて焼失したる旨の

因みに發火の原因に就いて

十棟を焼き拂ひ、同午、前四時過ぎ、鎮火せり。何分深夜のことにて、出火の
 ▼発見遅かりし爲
 斯く、此事に及ばれたるものゝ如く、火元なる處迄、出火を發見したる際、遂迄が火元ながら、痛く同情の涙を流され、
 は、自宅は既に一面の猛火に包まれ、
 隣家の救方、遂も延焼し、居りしとして、手の附け様なき程なりき、
 一、急報に接したる京城、常備消防
 出、來なかつた

火元ひもとの主人しゅじん

前少に契み本國を尋ねては、魚出
 るの應援を得て現地に非常線を引
 りて内外の保護及び交通整理をな
 したり、何分にも現地附近は
 元元渡邊長次郎（こゝろは焼く煙
 の頭部の髪を搔てつゝ派なが

100

大邱河陽間輕鐵試乘記

[illegible]

くこゝから供給する、即ち東へ寄いた。會社を出る時、

村は京族に於ける蘇島で第一その名郡からして似てゐる。その上に果樹園が多い。蘇菜園は無論の事漢江と兄弟分のやうな察州江がある。東振の移民が多い。蘇江の附近には内地風の百姓家が澤山あつた。そしてその高い壁や軒先きに、

であるといふ所が本邦流の土と蘇島流の土とを分ける所である。

◆ 譯名に
は、略的な
大邱府を略して曰く東府、曰く大邱府を略して曰く東府、

曰く東府、そのまゝ時に不覺句に
なりきやうな所を多うござんす。こ
に於ては、そのまゝに名を以てさ
す。然るて、牛牛と云ふこれは大
牛、然るて、牛牛と云ふこれは大

の原因

▲兩隣家でも 火に包まれ
 ながら一人も起てゐないので片鐘
 から「火事だ／＼」と呼び起して
 歩いて櫓丈一棟の儘戸部さん
 初め近所に加勢しました。其の内
 家族の身の上と思ひ當つて行儀を
 調べました所妻と娘は無事で避難
 してゐましたが、仲で共に寝てゐた
 妻は火傷を負ひながらも表口

女官の過失か
 大造儀出火の原因に就ては世に
 々の感説を傳へらるゝも、若
 説の如く瓦斯管より發火せしと
 云ふことせは這是全然其根柢な
 を明かにし得る理由あり、亦是
 を用ふるは厨房なれど厨房の天
 蓋鉛を以て嚴重に張り詰め

▼火爐の邊に は是

目應兵官食下なな百十三番
後方より出火常備山

[illegible]

海にも端唄にもなつたのではない。

[illegible]

「金言房」

[illegible]

● 西小丸の三指の天竺蘭は京極高次

[illegible]

分と混雜だ馬鹿に這五の威張るのも可笑い

[illegible]

返したのに三時半頃だった。そして歸途途

◆折好く

同氏の説明によると、本年の六月
すでに本州での調査を終了し、同年の
八月に帰京後で完結したものと見えて然う
なると念願通りに成る見掛けの名残も
さうかと思はれる。それから現在ある人
員は一日平均百二十人、一呼の役人数四五十
人に達するが、折々飛脚を飛ばして十三圓と十
八圓と二銭を飛び越して十三圓と五

室とてその政治的意義は目下金
文書の秘藏官選定は日本の所屬
の公使館が東京公使館中最も多
らうといはれてゐる其の反對に
氏は頗る少なく三浦公使と井田
記官と東郷官補と弓削書記生の
四名だから総員の數割は若い日
内外の毎日東京各新聞を閲覧す

◆◆貨物の本線聯帯扱

を發行し、更に一日二回位不定期
の貨物列車を、然すれば
奥地からの貨物輸送は尙然だ
輕便に集まつてくるのだからだ
この外に種々會社の事業に就いて
働くところがあつたが、それは
づれ讀んで記するにしよう
(おわり) 三遊生

債券現物特電

[illegible]

東方其水

大阪株式特電

正米と眼先

仁川期米

十二日(保合)

大坂天候晴

新橋 三三

[illegible]

192

[illegible]

る事となり高値當時の寸

[illegible]

限寄付二十三圓八十二錢

大阪期米

▲十二日午後
六錢五錢四錢五厘四節二千九匁
大阪の上寄りを受けて中十九匁
十二匁先二十九匁と着付粉小九匁

▲十二日午後
△當限寄付二十三圓八十二錢止め
九匁九錢

二、豆取利所

[illegible]

也、同清久枝秀喜、同たか、野田文尋、
いさ、田井直生、同経理、同富美子、渡邊

[illegible]

一切說

募集規定
 ①用紙は発売中
 ②同形の用紙一枚毎に紙上の雅號
 又は匿名の外に住所氏名明記の事
 ③賞金は一個限後④種別は姓名不
 問

十一月十三

[illegible]

ツク國が政界の動搖に堪じ勢力を回復しつつあり即ちコルニヨロの裁判にコツク士官二名を立はせざるやとの懸念の如きは恐らく杞憂に止まらず而して知識上優兩縣の爲め敵味方より共に同情を被るは其の況を計し得ず

東京美術學校教授 福井江亭伯

回雄偉にして崇嚴



虎狩の細

何んでも彼でも撃取つて
朝野の紳士に御馳走する

二 近衛師團演習

東宮殿下に十一日午前八時
十分上野驛御發能谷に行啓
近衛師團機動演習御觀戰午
四時上野驛御著御還啓あらせ

をたる威容を備へてゐる

左右の内外金剛に至つては、建
たる點に幾多の妙趣を發揮して
るからである。即ち前者は雄渾
嚴たる景趣を占むるに反し、後

君と云ひ木と云ひ何れ半

同 織麗なる風致を

は有るまゝに

嚴寒が來ても

生一

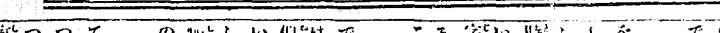
數日間斷水
の憂目を

同洞ドウ
一箇イツ
所ショ

十一日午後十一時二十分頃京
洞八十五番地崔湖亭方より
家屋根少許を燒きて即時鎮火
時刻同洞百一番地趙義處方の
火根より發火して燒出たる其

所田中老太郎方の船に
の曲者忍び入り松の金

つて左端山本氏、氏の後新屋

[illegible]

なんて

船賃がたが悪いので、家
 を出かけてゐる。法が
 悪いですか。お民が居なかつ
 ても置いとけば可いの
 ではないや。母さんの方へ
 来れば流やなり誰なりよ。



誰たつて

鳥渡手を洗はせて貰ふね。おや矢張美顔洗粉だね。

1125

惜しい事したね。泥棒どろぼうに盗ぬすまれたもの。俊雄さん男おとこね。ないけさ色が些ち黒くろすぎた。何なんでもこりや美顔洗びがんせん粉こなを。るに限かぎるよ。だが、あひ

新調しんてうのお召めいの
二枚がさねは

て、お金を預つて來

。ほんさに最早これに涙を
附けなさいよ。それから
非お飼ひなさいよ。今日は
